

三重に住む避難者さんの声

福島のことを忘れずにつなげる心を持ち続けて

3、11の大震災からもう4年が過ぎた。震災の日、私は福島市の友人宅にいた。ゴーっという地響き、立ってはいられない 激しい揺れ。TV、たな、冷蔵庫、いろいろなものが 次々に倒れ落ち、壊れていく。「こわいよー、こわいよー」幼い3人のわが子たちは泣きさけんだ。子どもたちに 毛布をかぶせ抱きよせた。「だいじょうぶ、だいじょうぶ」って言って。それでも揺れがおさまらず、余震が続く。家が、ガタガタガターと音をたて、家が崩れそうに激しく揺れた。「あーあ、もしかしたら このまま死んでしまうのかもしれない。」死を覚悟した。でも、子どもたちだけは守ってあげたい。そう思い、子どもの頭を必至でかかえた。少し揺れがおさまり外をみると道路はひび割れ、ブロックベイは崩れおち、車がこわれ、窓ガラスが割れていた。家の中が散乱して足の踏み場がなかった。しばらくしてTVをつけ、地震の情報を集めていたら津波の映像がながれてきた。「えー！」目を疑った。慣れ親しんだ家から40分くらいの海が、まるで映画のシーンなんじゃないかと思うくらい、信じられない勢いの津波。家も、車も、人も、なにかものみ込んでゆく。信じられなかった。信じたくなかった。すごい不安におそわれた。なお続く余震。恐怖の連続。そうして、夜10時頃、友人が言った。「原発があぶない、このままここにいて、もしチェルノブイリのような事になれば即死かもしれない。」「だから、今すぐ逃げ

避難者の方の知り合いも増えました

匿名希望
震災時、私は福島県で暮らしておりました。地震直後に指定された避難所に行ったときは、福島から避難することとは考えてもみませんでした。避難を決断することになったのは、原発が危ないというニュースを耳にしたこと

て!!」「できれば、名古屋からむこうに!!」私は信じられなかった。いったい何が起きているの？ 疲れ果てた私は、さらに頭が真っ白になったが、とにかく、ここを出よう。家に帰ろう。小さな3人をかかえておそるおそる雪道の中、飯舘村の家に帰った。家は、停電で真っ暗だった。夫に伝え、30分後に、家を出ることに決めた。ガソリンはどこも閉まり、わずかしかないが、できるだけ遠くへ。生後11カ月の子をおぶり、真っ暗の中、ライターのわずかな火をたよりにあわて、とりあえずの子どものおむつと服、水と食量を手探りで詰め、家を出た。避難の途中、吹雪。外に出ると足が冷たかった。私はサンダルだった。あわてていて、靴も、服も、自分の物は何も持ち出すことが出来なかった。

あれから4年、家には大量の放射能が降り注ぎ、1度も家には、帰っていない。家の中のものも汚染され、持ち出しが出来ない。子どもが言う。あの日、サンタさんがくれたおもちゃは？ あの日、おばあちゃんが買ってくれたピンクの洋服は？ みんな、一人一人にとって、思い出も全部置いてきている。なんて、かなしい現実。私は知っている。専門家じゃないけれど、母として。放射能が降り注がれてしまった我が家には、もう帰れないことを。いくら国が、帰村宣言しても、大切な子どもを、心の底から笑顔で自由に遊ばせてあげられないことを。自然を汚してしまった、おろかな私たち人間たち。どんなに除染しても、汚染された土も木も、どこにも行き場がない。やがて水となって流れ、めぐりめぐって私たちの体に汚染された水は帰ってくる。この悲しみ、この不安を、この恐怖を、この怒りを、いったいどこにぶつけたいの？ どれだけの子どもたちを、福島の汚染地帯に置き去りにして、苦しめ続けたらいいの？ 誰も、責任を問わない。原発事故が、どうして犯罪でないの？ これだけの事が起きて、苦痛の中、自殺された方がいる。ストレスで、亡くなられた方が多くいるというのに。こんなことが起きて、福島は、いまも放射能が出続けて、なにも解決していない。3、11から、何1つ、私たちの村は、変わっていない

がきっかけでした。チェルノブイリ事故後に起こったことを咄嗟に思い出し、同じことが起こるかもしれないと恐怖心を覚えました。子供への健康被害が何よりも心配でした。

三重県へ移住してから三年強になります。公園など子供が遊べる公共施設が充実していることや、少し足を延ばせば海や山、加えて温泉があつたりすることが利点だと思います。最初は誰も知り合い

現実があるのに。どうして終息宣言なんていえるの？ どうして、原発推進なんていえるの？ おかしいよ!! おかしいでしょ!! 私たちは、いったい 誰のために、こんな目にあつたというの？ 今もなお、帰ることが出来ないで、避難して苦しんでいる多くの人がいるのに、推進だなんて、こんなんじゃないじゃ私たちが報われない。お金なんていらさない、補償なんていらさないから、3、11以前の元の暮らしを返して!! 村人たちの笑顔をかえして!! 清らかな水、澄んだ空、豊かな大地をかえして!! 村人たちは、みんなみんな、自分の食べ物も自分で育てていた。本当の豊かさは、ていねいに生きること。あるものを生かして、いきることを知っていた。水も、空気も、大地も、お米も、お野菜も、豊かな自然がなければ育たないということを忘れないでほしい。私たち人間は、そうした自然に生かされて、はじめて生きてゆけるんだってこと。もう1度、ちゃんと思い出してほしい。本当に大切なものは、何かって事を一人一人が考えてほしい。福島でおきた この現実、いつ自分のところにやってくるかもしれない。一人一人の考え方、暮らし方を問い直しせず、大量消費の、このお金中心の生き方を選択するならばまた、同じ過ちを繰り返すことになるだろうと、私は思います。どうが東北のことを、福島のことを忘れないで下さい。いつまでも、つなげる心を持ち続けていて下さい。おねがいします。

『なな色の空』代表
村上日苗(むらかみ かなえ)さん

4児のお母さん。2011年、震災翌日3月12日に3人のお子さんを連れて、福島県飯舘村より県外へ緊急避難。3月16日に三重県伊賀市へ避難をし、そこで4人目のお子さんを出産。2013年4月に美杉町に移住。2013年12月より「311 みえネット」運営メンバーとして活動しながら、2014年夏より、保養プログラムで受け入れ支援をしている。

もない土地でしたが、様々な避難者支援活動にお誘いいただいたことが、同じような避難者の方々と知り合うきっかけになりました。避難者の孤立を防ぐためにも、このような支援がこれからも継続されれば嬉しいなと思います。

最後になりましたが、三重県において様々なご支援をいただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

避難者支援活動に励まされました

匿名希望
福島県郡山市より避難 二児の母
いつも温かいご支援ありがとうございます。おかげさまで三重県での生活にも慣れ、子供たちはすっかり三重弁を話す三重っ子です。
私たち家族は地震や津波での被害はほとんどなく、原発からの放射能に不安を感じての自主避難でした。私たちは当初、支援をお願いするなんて絶対にしてはいけないこと、自分たちだけで頑張っていかなければ、と思っていました。なぜなら避難区域ではない所からの、言ってみれば勝手な自己判断の避難なのだから、他人には理解してもらえないだろうし、迷惑をかけてはいけないと思っていたからです。
そんなある日、子供の通う保育園の先生が「避難者を招待するイベントがあるみたいだよ。」と1枚のチラシをくださいました。自主避難でも大丈夫なのかな…、私は恐る恐る電話をしてみました。なんと自主避難者でももちろん参加OKとのこと。私は信じられず、また聞き返してしまいました。これが三重県で支援をしてくださる皆さんと繋がった瞬間でした。以来、イベントなどへの招待やお菓子のプレゼントなど、子供たちが喜ぶ支援を中心にお世話になってきました。



春休み福島の子どもも保養企画を開催！

コープみえでは福島の子どもたちをお招きする保養企画を年2回(春休み、夏休み)開催しています。今春は5家族16名をお招きし、四日市のふれあい牧場で、乳搾り体験やアイスクリーム&パターづくりを楽しみました。また、志摩スペイン村やマリノランドでの外遊び、伊勢神宮参拝も行ないました。
今夏は孤野町の三重県民の森で三重の子どもたちと外遊びを行ったり、三重大学で学生と竹とんぼづくりやゲームを行なう予定です。

「くらしたすけあいの会」活動中

たすけあいの会は、生協(コープみえ)の組合員が行う有償の福祉活動です。困った時はお互いさまの気持ちで活動しています。桑名・四日市・鈴鹿・津・松阪・伊勢のエリアで活動中！

事務所移転に伴い、3月23日より電話番号が変わりました。お気軽にお問い合わせください。
●くらしたすけあいの会事務局 ☎0120-606-502
月～金曜(土・日祝日除く) / 9時～16時

コープ宅配の配達利用料が無料になる「ほほえみ特別支援制度」のご案内

三重県に避難されている方は、コープ宅配の配達利用料が期間を問わず無料になります。詳しくは、コープみえコープベル ☎0120-514-460 まで(月～金曜 / 9時30分～18時30分)

子供たちは何もわからないまま、突然に祖父母やお友達と別れ、避難させられました。相当のストレスを与えてしまったのではないが、と心配している私たち親にとって、子供を笑顔にしてくれるイベントやプレゼントは本当にありがたいものでした。本当に感謝しています。ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願ひします。

第二の故郷の生活を楽しんでいます

匿名希望
郷の復興に背を向けてしまった！我が子の健康を最優先し移住をしましたが、常に移住の是非を問う自分があります。震災前より人口も増え仙台市に次ぐ都市となり復興&活性化進行中の情報を聞くとも最近罪悪感まで加わって来ました。地震・津波被害や原発事故による避難指示が出た地域とは違い、自主避難だからこそ葛藤でしょう。移住＝解決&否定ではないし、理解され難しいケースだと認識してます。勿論、自分達で決めた人生！！縁があった土地で地域性の違いを楽しみながら日々生活しております。お笑い好きの関西気質・東海地方な

のに西日本！個性派揃いの自治体！さあ～三重県あるある(本)を道標に第二の故郷を探検しようっと～。

子供の成長に時の流れを感じます

匿名希望
私は311のあった日、千葉県柏市に居ました。地震の被害はそれほどでもなかった我が家は放射能のホットスポットとなり、2011年の夏に三重県へ移住してきました。
長男が4歳で、私は次男を妊娠中でした。そんな長男が小学生になり、次男は3歳、去年新たに産まれた三男もすくすくと大きくなっています。今でも主人は単身で千葉に残り、働いています。二重生活がこれほど長くなるとは思っていなかったのですが、早く家族一緒に暮らせるように、今何ができるかを考えながら過ごしています。
節目、節目で311のことを思い出します。3人の子供たちが私にいつもパワーをくれます。4年経っても変えられないものもあるけど、時は流れ子供は成長する。私は移住したからこそ出会えたたくさんの人たちに感謝しながら、与えてもらった以上の優しさを返せるように生きていきたいと思っています。

穴場スポット紹介します!「道瀬食堂(紀北町)」

紀勢自動車道を紀伊長島ICで降りて、国道42号を南に約6km。いくつかのトンネルを抜けて坂を下っていくと、交差点左手に青い文字で「←道瀬食堂」って看板が立っています。
東日本大震災を機に東京から移住された若い御夫婦が、地元の食材を活かすお店を開きました。地産地消にこだわったピザやカレー、コーヒー、スイーツ、季節に合わせた特別メニュー(今は冷し中華!)など何でもおいしくいただけます。ドライブの目的地にいかがでしょうか？
住所：北牟婁郡紀北町紀伊長島区道瀬 83-2
TEL：090-1472-0505
営業時間：11時～17時 定休日：火・水曜
Facebook：https://www.facebook.com/douzeshokudou

「被災児童生徒就学支援等事業」をご存知ですか？

東日本大震災により経済的理由から就学が困難となった幼児、児童、生徒の学用品費や学校給食費などの経費に対する補助制度です。幼稚園の保育料・入園料や小中学校で必要な学用品費、修学旅行費、学校給食費などの経費に対して補助されます。幼稚園、小中学校、高等学校、特別支援学校及び私立学校でそれぞれメニューが違いますので、詳しくはお住まいの市町教育委員会や学校等にお問い合わせください。

今年もやります！みえとも名物「芋煮会」

みんなで力を合わせてワイワイ作って、お腹いっぱい食べて。芋煮会で三重の秋を心ゆくまで満喫しませんか？
乞うご期待！秋のお知らせを待っててくださいね。